

【OIE 情報】 ロシアにおけるアフリカ豚コレラの発生について

ロシアにおけるアフリカ豚コレラの発生について、OIEへ続報がありましたのでお知らせします。

【出典】

OIEウェブサイト（2月18日：続報6（初報：2014年1月24日付け））

[http://www.oie.int/wahis\\_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=14797](http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=14797)

（OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。）

【発生状況等】

- ・ 発生場所：ブリャンスク州 ムグリンスキー Lugovka（野生動物保護区“Kletnyansky”の敷地内）
- ・ 発生日：2014年2月6日

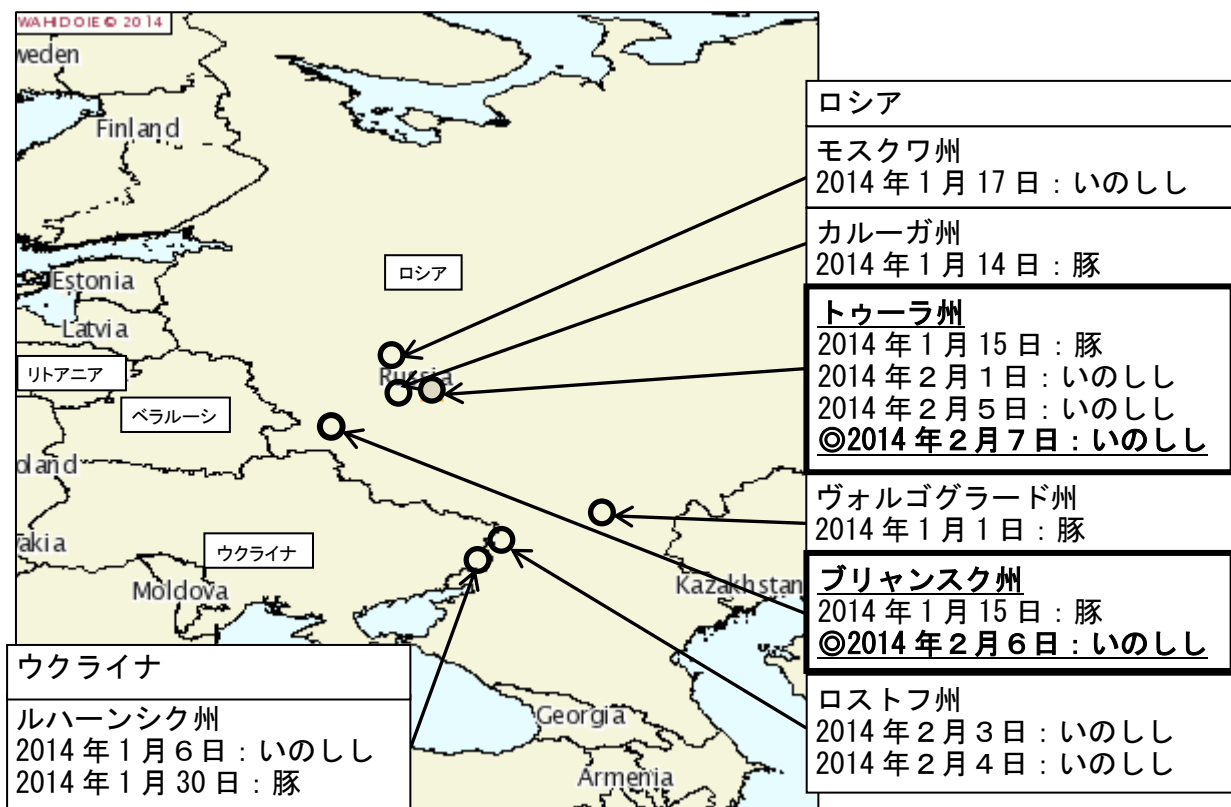
| 【動物種】 | 【飼育頭数】 | 【症例数】 | 【死亡数】 | 【淘汰数】 | 【と畜数】 |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| いのしし  |        | 3     | 3     | 0     | 0     |

- ・ 発生場所：トゥーラ州 ヤスノゴルスク Milino\*（狩猟農場“Milinskoye”の敷地内）
- ・ 発生日：2014年2月7日

| 【動物種】 | 【飼育頭数】 | 【症例数】 | 【死亡数】 | 【淘汰数】 | 【と畜数】 |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| いのしし  |        | 13    | 0     | 13    | 0     |

\* 動物衛生課注：OIE 報告中の発生地点の緯度及び経度はトヴェリ州を示している。

【ロシア・ウクライナにおけるアフリカ豚コレラの発生地点】（2014年1月～）



(参考1：アフリカ豚コレラとは)

アフリカ豚コレラウイルス（二本鎖DNAをゲノムに持つアスファウイルス科アスファウイルス属）感染による豚の熱性伝染病。臨床症状および病理所見は豚コレラと類似。甚急性では突然死亡、急性では発熱（40～42℃）、食欲不振、粘血便（ねんけつべん）を呈し、100%死亡する。

感染豚や実験感染豚にはこのウイルスに対する中和抗体が産生されないため、本病に対する有効なワクチンはない。スペインやポルトガルなどでは大規模な殺処分等による防圧で本病を撲滅した。有効な治療法は存在しない。

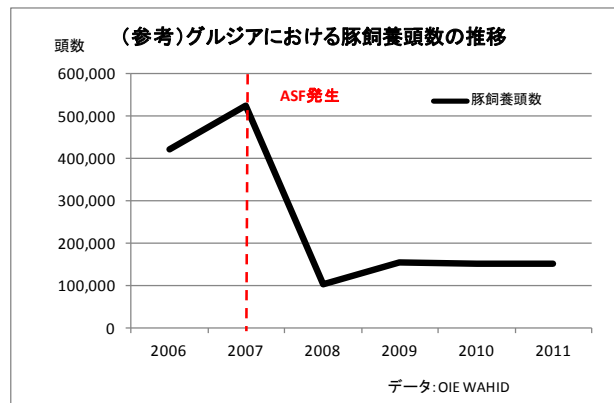
我が国では、法定伝染病に指定。

国際連合食糧農業機関（FAO）などの国際機関が「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」と定義する「越境性動物疾病」の代表例である。

本病は、アフリカ地域で常発的に発生が見られるが、近年、ロシアのコーカサス地方等での続発や中・東欧での発生が報告されている。

(参考2：コーカサス地方・中東欧におけるアフリカ豚コレラの発生)

- ①2006年末頃、グルジアで発生。コーカサス地方に侵入（黒海に面するポチ港を通じて、南アフリカからグルジアに侵入）
- ②グルジアでは2007年に約50万頭の豚が飼養されていたが、2008年には約10万頭に減少。



- ③2007年8月にアルメニア（豚）、2007年11月にロシア（チェチエン共和国）（野生いのしし）、2008年1月にアゼルバイジャン（豚）で発生。
  - ④2012年7月にウクライナ（豚）、2013年6月にベラルーシ（豚）で発生。
  - ⑤2013年7月、EUはベラルーシでのアフリカ豚コレラの発生に関し声明を発表。
  - ⑥2014年1月にリトアニア（野生いのしし）で発生。ウクライナで再発（豚、野生いのしし）。
  - ⑦2014年2月にポーランド（野生いのしし）で発生。
- ※これまでにロシアでは、アフリカ豚コレラの発生によって60万頭以上の豚が死亡又は淘汰されたとの報告がある。

※コーカサス地方では昨年、口蹄疫（A型）も発生。ワクチン接種等を実施中。

※2014年2月、コーカサス地方に位置するロシアのソチにおいて、冬季オリンピックが開催。

動物検疫所では、ソチオリンピック開催等にあわせて、キャンペーンを実施中

URL: <http://www.maff.go.jp/aqs/topix/campaign.html#sochi>